

出題分析		
試験時間 60分	配点 150点	大問数 4題
分量 (昨年比較) [減少 同程度 増加]		難易度変化 (昨年比較) [易化 同程度 難化]
概 評 ——出題の特徴・特記事項		
<p>〔Ⅰ〕は古代～近代の雑題, 〔Ⅱ〕はA鎌倉時代～江戸時代の商業, B平安時代後期～江戸時代の農業, 〔Ⅲ〕は史料問題で, A「新編追加」より新補地頭の設置, B「ハル=ノート」, 〔Ⅳ〕はA明治維新後の西洋文化の移植, B大正～昭和初期の学術・文化について, それぞれ出題された。</p> <p>〔Ⅰ〕の正誤判定問題では, 例年通り歴史的事象に関する正確な知識が要求された。〔Ⅲ〕の史料は, いずれも史料集に掲載されている史料である。〔Ⅳ〕では近代の文化について問われ, 文化史の幅広い学習の成果が問われる問題構成であった。</p>		

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
〔Ⅰ〕	古代～近代の歴史的 事象の正誤判定	1. a. 「前方後方墳」は誤りで, 200mを超える大規模な古墳はいずれも前方後円墳である。b. 埴輪は古墳の周りや墳丘上に並べられた。2. a. 608年に裴世清が煬帝の答礼使として隋から送られている。b. 南淵請安は大化の改新以前に亡くなったとされ, 国博士に任じられていない。3. a. 『顕戒論』は大乗戒壇の設立を主張するもので, 嵯峨天皇の支持を受けた。4. a. 官田と公営田の説明が逆。b. 田荘ではなく封戸。5. a. 権限を「縮小した」守護の設置を強行した。b. 後嵯峨上皇は幕府に協力的で, その皇子宗尊親王が皇族将軍となった。6. a. 土岐康行や山名氏清を討ったのち南北朝合一を行った。7. a. 金座・銀座は江戸時代に設置。8. b. 三宮ではなく駿府。なお, 大坂城代は老中の配下ではなく将軍直属であった。9. b. 松尾芭蕉は西山宗因の談林派を批判した。10. a. 上原勇作は第2次西園寺公望内閣の陸相。	標準

設問別講評			
〔Ⅱ〕	A 鎌倉時代～江戸時代の商業 B 平安時代後期～江戸時代の農業	2. やや細かい知識が問われた。イの大山崎離宮八幡宮の神人は石清水八幡宮を本所とした。ウは関銭を免除されている。見落としがち。3. アのような寺内町は自由な商業取引を原則としたため、誤り。4. ア・エ「株仲間解散」、イ「楽市令」、ウ「今堀地下掟」。8. 難。ウについて、近世の農家は主に小規模の零細経営であった。9. ウとエは内容が逆。籾選別具が唐箕で、脱穀具が千歯扱。10. イの荏胡麻は主に中世の原料作物。	標準
〔Ⅲ〕	A 「新編追加」より新補地頭の設置 B 「ハル＝ノート」	Aは比較的頻出の史料だが、Bは初見の人も多かったと思われ、史料に基づく判断が求められた。3. 新補地頭の収益に関する史料であることを念頭に考えたい。4. 以前の荘官の得点が適切であった場合は改めて処置しないことが史料文中に書かれている。5. 細かい年代把握が求められた。6. やや難。アとウで迷う。7. ア. 北部に進駐したのち南部に進駐。ウ. オランダ領ではなくフランス領。	やや難
〔Ⅳ〕	A 明治維新後の西洋文化の移植 B 大正～昭和初期の学術・文化	関西学院大学では大問1題がすべて文化史で出題される年度もあり、大問1の正誤問題と合わせて必然的に文化史の割合が多くなる。この大問で差がついたかもしれない。3. やや細かい。文展は日露戦争後の1907年に開催された。10. アの滝川幸辰は刑法学説を唱えた。	やや難

合格のための学習法

例年通りに幅広い時代から出題された。例年全40問中、近現代史が全体の半分近くを占めているが、今年度は現代史からは出題がなく、中世史の割合が高くなった。また、〔Ⅰ〕の正誤判定問題や〔Ⅱ〕～〔Ⅳ〕の正誤判定問題では、いずれも注釈を含む教科書や史料集等の記述を参考にしたと思われる設問が散見された。こうした出題に備えて、対策がおろそかになりがちな近現代史の学習を徹底しつつ、全時代を通じて教科書をベースに、教科書の注釈・用語集・史料集・図説資料集で知識を補ってほしい。また、史料問題の演習では過去問を用いて史料の読解に慣れておき、時間配分に十分注意しながら高得点を目指したい。